

平成30年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600158	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	有限会社アルファープランニング		
事業所名	グループホーム梅		
所在地	( 252-0153 ) 神奈川県相模原市緑区根小屋8番地1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年11月8日	評価結果 市町村受理日	平成31年3月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地はJR横浜線橋本駅より車で20分程で、県立津久井湖城山公園のそばにあり、緑に囲まれた静かな環境にあります。市街地より離れている為地元地域とのつながりは大変重要なことと考えております。地元自治会に加入しており、自治会の行事への参加や、自治会館の清掃、地域の一斉清掃、防災訓練にも参加しており、施設と致しましても、施設での行事へ自治会の方をお招きしたり、子供神輿の休憩場所の提供をするなどして交流を図っております。その他地元小学校の仕事体験学習の児童受け入れ等地域の方々との交流を深めております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成30年12月18日	評価機関 評価決定日	平成31年3月12日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR横浜線橋本駅から車で20分の丘陵地にあります。バス利用もできますが車利用が便利です。県立津久井湖城山公園が近く、静かな環境に恵まれています。

#### <優れている点>

事業所は地元自治会に加入し、夏祭りや収穫祭などの地域行事、清掃活動、防災訓練などに参加して地域との交流やつながりを深めています。山間の丘陵地を整地して建設していますが、鉄筋コンクリート造りで、居間や食堂、廊下、トイレ、収納場所などがゆったりと作られており、利用者の安全・安心な生活を支援しています。利用者は、経験豊かな看護師、ケアマネジャー、介護職員などのスタッフにより、一人ひとりが丁寧な支援と行き届いたケアを受け、家庭的な環境で暮らしています。運営法人との連携もよくとれたサービス提供が行われています。

#### <工夫点>

家族から供給がない場合、不要になっている衣類の中から提供しています。開設当初から設置されているリフト浴は、車いす利用の入居者に喜ばれています。また、利用者は毎食の食事の準備に参加し、職員と一緒に食事作りを楽しんでいます。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム梅
ユニット名	紅梅

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの理念を各ユニットの玄関ホールに掲示し、理念に沿った介護が出来るよう心掛けています。「行動指針」についても掲示しており、入職職員のオリエンテーションでも必ず説明しています。	事業所の基本理念「一人ひとりの尊厳と個人の意思を尊重し、安全・安心で充実した暮らしの実現」と、3ヶ条の行動指針を、各ユニットの入口や事務室に掲示しています。また、配布する施設案内の冒頭にも明記しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会へ入会しており、地域行事への参加、施設行事への協力を頂いております。	自治会に加入し、夏祭りや収穫祭などの地域行事、清掃活動、防災訓練などに参加しています。小学校の体験学習の受け入れを行っています。地元の職員も多く、緊密な協力関係が築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、地域からの担当者の方に施設運営や、利用者様へのサービスの現状を報告し、意見交換するするにとどまっております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施し、施設での取り組みや行事等の報告、自治会、地域の担当者の意見を聞き、相互に役立てています。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会々長、利用者、家族などが出席しています。事業所からの活動報告の他、市や自治会からの知らせもあり、活発な情報交換が行われています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には市からの担当者も参加頂いており、情報交換をしています。また、代表者が行政との窓口となり、生活保護者の受け入れをしたり、良好な協力関係を築いております。	市の高齢福祉担当職員が運営推進会議に参加しています。利用者に生活保護受給者がいるため、市及び区担当職員の事業所定期訪問もあり、緊密な連携関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者個々の様子を捉え、職員全体で支援の方法を考え、身体、言葉の拘束のないよう取り組んでいます。見守りを密にすることで玄関の施錠はしていません。	年2回、事業所で身体拘束の研修を行っています。外部研修も受講するよう努めています。外に出たい場合は、さりげなく声をかけたり、安全面に配慮した対応を行っています。各フロアの入口は安全面の配慮から施錠していますが、必要な場合は職員が開錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修計画の中で虐待の種類及びその関連法について周知しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間研修計画の中に組み込み、研修をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は利用者及び家族に対し重要事項を丁寧に説明し、疑問点はその場で対応しています。契約の改定についても重要事項説明書の中で2か月前に変更理由を説明しその算出根拠を明示しています。契約の解除についてもそれぞれに記載しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に苦情受け付けボックスを設置。意見を受け取った際は管理やより運営本部へすぐに連絡をするようにしています。面会に来られたご家族には必ず声掛けをし、利用者の様子をお伝えすると共にご家族のお話を伺っています。	利用者及び家族は、2ヶ月に1回の運営推進会議に出席し、意見・意向を伝えています。家族には利用者状況を毎月手紙で知らせるほか、家族が来訪した際には、常に声かけし、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段より職員の話の聞いたり相談にのっています。業務の改善や見直しはその都度話し合い決まった事は申し送りノート等で周知し、職員間で決められない事や急ぎの事案については管理者より運営へ連絡し指示を受けています。	各フロアの会議が毎月開催され、各種の連絡事項や意見交換が行われています。備品の購入可否など、事業所で決定できない意見は、法人担当部に相談し指示を仰いでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の健康管理には特に注意し、定期健康診断を実施。職員の健康管理と共に超過勤務も含め就業規則の遵守を図っている。知識技術のスキルアップを監修及び実践の中で指導している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員には入職時施設独自の介護マニュアルを配布している。常勤者、非常勤者の区別なく会議及び研修に参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連する他社セミナーの情報に目を通し、可能なセミナーには参加するよう努めている。高齢者支援センターによる主に在宅での介護をされている方の集まりの中でグループホームについてお話しをさせていただきました。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時の情報、アセスメントにおいて利用者や家族より事前情報を得て情報を理解したうえでご本人と関わっていきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の要望、将来の方向性などを聞き込み、経済状況も含め話しやすい雰囲気を作りニーズに合った相談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門医の通院やリハビリ等必要であればその病院に通えるよう支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	清掃や洗濯ものたたみ等、生活の中で共に出来ることは参加していただいています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時、日ごろの様子をお伝えするとともにご家族のご本人に対する気持ちや要望を聞き、共に語り合える関係が作れるよう努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人や知人の方が来訪される利用者もいますが、地元以外の殻の入居者も多く、ご家族の協力が無いと現実には難しい状況です。	近所に住んでいた頃の友人や知人の訪問がある利用者の支援を行っています。家族との外出や食事、通院などは、要望があれば支援しています。友人・知人の訪問の後に帰宅願望が強く出る利用者もおり、支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	集団レクリエーションや一緒に過ごす時間を作り、利用者同士上手くコミュニケーションが取れるよう職員が間に入り支援していきます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用契約が終了されたご家族からの相談もある為、関係を切らず支援しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各自のその日の体調や気分配慮しながら日課を過ごして頂いています。ご本人から話を聞くときは、居室で話を聞くなど話しやすい環境を整えて傾聴しています。	「今日は風呂に入りたくない」「パンが食べたい」など入浴や食事の思いや希望を聞いています。また、歌が好き、手芸が得意など、習い事などのへ思いや意向も聞いて、ケアプランなどに組み込み、支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の情報やご本人の話から生活のリズムやなじみの暮らし方を知り、利用者一人一人に合った暮らし方や環境づくりに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	心身の状態観察や、日ごろの生活の中から暮らしの現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員全員よりアセスメントを集め、介護計画の作成に関わってもらっています。また、ご家族やご本人の意見や希望も尊重し作成しています。	ケアマネジャーは、利用者一人ひとりについて、サービス担当者会議を行って、ケアプランを作り、日課計画表を作成して日々の介護に繋げています。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごとにケアプランの見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきや工夫は日々話し合い、連絡ノートにて周知、統一を図っています。介護記録については日々の様子やケアプランと連動、施行を記録し、次のケアプランにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の希望を聞くと共に、他科専門医への受診や、ドライブ、外出できるレク等を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に地域自治会長と民生委員に必ず出席して頂いており地域の情報や施設の状況の情報交換を行えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれ診療科目ごとにかかりつけ医があり、必要時は受診、相談できる体制が整っています。受診結果は、ご家族に電話や訪問時に説明しています。歯科については訪問歯科を利用。	入居時に本人及び家族にかかりつけ医の確認をして同意を得ています。かかりつけ医の変更の場合には適切な引き継ぎに努めています。通院の際には家族への支援を行っています。事業所では吸入器や酸素供給機を使用しないケアを目指しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度訪問看護を受けており、利用者の状態を伝え、適切なアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時施設より介護サマリーの提出をしている。連携医療機関の退院計画に添い、ご家族を含め施設側と協議し、迅速な対応をおこなっている。施設へ帰れぬ状況では、療養病床や老健の相談、紹介を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合には提携医と施設が連携をとり、家族の意向を確認しながら施設としてできる限りの支援をしています。	重度化した場合、事業所は提携医が利用者の状態を確認した上で、利用者や家族と十分に話し合い、意向を確認し、支援の方法について対策を講じています。これまで事業所での看取り実績はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜間時における緊急対応は緊急時連絡網に添って行っているが、より迅速な対応については職員間で話し合っています。利用者の急変、事故発生時の応急手当、初期対応については施設独自の介護マニュアルや研修等で身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災時、土砂災害時の避難訓練を実施しています。自治会主催の消防訓練にも参加しており自治会との連携に努めています。	年2回の法定避難訓練を行っています。そのうち1回は夜間を想定した訓練です。自治会主催の防災訓練にも参加しています。非常時の備蓄は、3日分の非常食や、おむつ・パンツなどの衣料品、懐中電灯など生活用品も準備しています。	事業所は地域の防災訓練に参加していますが、事業所の防災訓練への地域からの参加はありません。地域住民との相互協力関係の構築も期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけないような言葉がけを心掛けています。利用者、キーパーソン以外の人に情報提供をしないこととしている。社内研修により個人情報やプライバシーの確保について指導しており、個人情報書類については保管場所を定めています。	利用者のプライバシーや人格の尊重に配慮しています。トイレの誘導や入浴介助には、同性介助対応やドアの外からの見守りを行っています。利用者とは親しみのある丁寧な言葉で接しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が発言しやすい環境を作り、コミュニケーションを図り、本人の決めた内容によりづけた実施が支援できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入所以前の生活習慣や生活のリズムを尊重し、一人一人の日常生活を把握し、その日の体調や気分に合わせて過ごせる様配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容を希望されている方に関しては2か月に1度出張の理美容をいれています。毎日の身だしなみは本人の希望に合わせて行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の嚥下状態や栄養面、アレルギー等を考慮し食事を提供しています。季節や行事に応じた献立や誕生日には希望の料理をメニューに取り入れたりして食事を楽しんで頂いています。テーブル拭きや下膳の手伝いをしてくださっています。	献立及び食材は外部委託していますが、調理は各フロアそれぞれ別々に職員が交代で行っています。利用者は、食後の下膳や茶わん洗いなどを職員と一緒にいき、手伝っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量のチェック表より、毎日の摂取量を把握しています。医療からの指示に基づき生活習慣や思考、その日の様子を考慮し摂取量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後、就寝前に実施。(必要に応じて介助しています。) 義歯の管理については職員がかかわり紛失や破損、清潔の保持につとめており、訪問歯科による個々の口腔指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導をしています。夜間帯のトイレ誘導も本人の希望に合わせて行っています。	入居者の排泄チェックと、会話や身振りのサインから排泄のパターンを把握し、さりげない声かけや誘導を行い、羞恥心や不安に配慮しながらトイレ支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘がちの方には水分量を増やし、牛乳やヨーグルト等を飲んで頂きなるべく自然な形で排泄できるよう努めていますが、定期受診時に医師の指示に基づき便秘薬を調整し排便コントロールを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴前には必ずバイタルチェックを行い体調を把握した上で入浴をしています。湯音や入浴時間等希望を考慮し、湯船のお湯は一人一人取り替え、ゆったりとくつろげる入浴をめざしています。シャワー浴、清拭、足浴も併用しています。	入浴時間は原則として午前中で、週2、3回入浴しています。希望や体調に合わせて入浴日を調節しています。車いすの利用者の場合は、備え付けのリフト浴を利用をしています。ゆず湯などで季節感も味わっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の体調や状況に合わせて休息や臥床をしています。昼夜逆転しないよう日中適度な運動や活動、日光浴や外気浴をして昼夜のメリハリをつけ安眠につながるようになっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容や副作用については提携薬局からの情報や指示を受け、処方内容を確認するよう徹底しており、誤薬防止の為薬箱の個別化、職員同士の二重チェックをしています。日々の状態変化、動態観察にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活の中で、家事の役割が自然と利用者の交流の中から生まれるよう支援しています。趣味への取り組みについては個別のレクリエーションとして継続できるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	市から福祉タクシー券を受けている利用者には諸行員が同行し外出をして買い物を楽しんでいただいております。	1週間に数回の散歩を励行しています。また、庭での外気浴を行っています。近くの公園の収穫祭に参加したり、花見など郊外にも車を使って出かけています。自宅への帰宅も支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持に関しては管理ができる方に限定されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに注意し、電話の使用、手紙のやり取りがおこなわれています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間の清潔を保ち、季節ごとに壁に装飾を配し、利用者の作品等を飾り、季節感や、生活感のわかる空間づくりに工夫をしています。	食卓や椅子は木目調の落ち着いたもので、ゆったり座れるソファがあります。居間の壁には、入居者と職員共同で作った紙飾りや切り絵、行事の写真が貼ってあり、温かい雰囲気です。また、冬には加湿器を配置するなど、室温や湿度の環境調整を心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士で談話をしたり、気分転換の為一人でくつろげるようソファの設置をしています。窓辺に作品作りを楽しめるようテーブルも設置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具、タンス、テレビ等を持ち込んで頂き、その人らしい部屋作りをおこなっています。気持ちよく過ごせる様毎日清掃を行い清潔の保持に努めています。	ベット、エアコン、クロゼットが備わっています。タンス、鏡台、テーブルなど慣れた家具を持ち込み、家族写真を置き、心地よく落ち着いて過ごせる環境となっています。掃除は、入居者が職員と一緒にいき、清潔に保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要箇所には手すりを配置、洗面台の高さ調整など配慮をしています。安全面については床に弾力性のある素材を使用し、転倒骨折の防止を図っています。		

事業所名	グループホーム梅
ユニット名	白梅

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの理念を各ユニットの玄関ホールに掲示し、理念に沿った介護が出来るよう心掛けています。「行動指針」についても掲示しており、入職職員のオリエンテーションでも必ず説明しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会へ入会しており、地域行事への参加、施設行事への協力を頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、地域からの担当者の方に施設運営や、利用者様へのサービスの現状を報告し、意見交換するするにとどまっております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施し、施設での取り組みや行事等の報告、自治会、地域の担当者の意見を聞き、相互に役立てています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には市からの担当者も参加頂いており、情報交換をしています。また、代表者が行政との窓口となり、生活保護者の受け入れをしたり、良好な協力関係を築いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者個々の様子を捉え、職員全体で支援の方法を考え、身体、言葉の拘束のないよう取り組んでいます。見守りを密にすることで玄関の施錠はしておりません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修計画の中で虐待の種類及びその関連法について周知しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間研修計画の中に組み込み、研修をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は利用者及び家族に対し重要事項を丁寧に説明し、疑問点はその場で対応しています。契約の改定についても重要事項説明書の中で2か月前に変更理由を説明しその算出根拠を明示しています。契約の解除についてもそれぞれに記載しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に苦情受け付けボックスを設置。意見を受け取った際は管理やより運営本部へすぐに連絡をするようにしています。面会に来られたご家族には必ず声掛けをし、利用者の様子をお伝えすると共にご家族のお話を伺っています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段より職員の話の聞いたり相談にのっています。業務の改善や見直しはその都度話し合い決まった事は申し送りノート等で周知し、職員間で決められない事や急ぎの事案については管理者より運営へ連絡し指示を受けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の健康管理には特に注意し、定期健康診断を実施。職員の健康管理と共に超過勤務も含め就業規則の遵守を図っている。知識技術のスキルアップを監修及び実践の中で指導している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員には入職時施設独自の介護マニュアルを配布している。常勤者、非常勤者の区別なく会議及び研修に参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連する他社セミナーの情報に目を通し、可能なセミナーには参加するよう努めている。高齢者支援センターによる主に在宅での介護をされている方の集まりの中でグループホームについてお話しをさせていただきました。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時の情報、アセスメントにおいて利用者や家族より事前情報を得て情報を理解したうえでご本人と関わっていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の要望、将来の方向性などを聞き込み、経済状況も含め話しやすい雰囲気を作りニーズに合った相談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門医の通院やリハビリ等必要であればその病院に通えるよう支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	清掃や洗濯ものたたみ等、生活の中で共に出来ることは参加していただいています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時、日ごろの様子をお伝えするとともにご家族のご本人に対する気持ちや要望を聞き、共に語り合える関係が作れるよう努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人や知人の方が来訪される利用者もいますが、地元以外の殻の入居者も多く、ご家族の協力がないと現実には難しい状況です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	集団レクリエーションや一緒に過ごす時間を作り、利用者同士上手くコミュニケーションが取れるよう職員が間に入り支援していきます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用契約が終了されたご家族からの相談もある為、関係を切らず支援しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各自のその日の体調や気分配慮しながら日課を過ごして頂いています。ご本人から話を聞くときは、居室で話を聞くなど話しやすい環境を整えて傾聴しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の情報やご本人の話から生活のリズムやなじみの暮らし方を知り、利用者一人一人に合った暮らし方や環境づくりに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	心身の状態観察や、日ごろの生活の中から暮らしの現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員全員よりアセスメントを集め、介護計画の作成に関わってもらっています。また、ご家族やご本人の意見や希望も尊重し作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきや工夫は日々話し合い、連絡ノートにて周知、統一を図っています。介護記録については日々の様子やケアプランと連動、施行を記録し、次のケアプランにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	比較的自立度の高い利用者が多い為、希望者にはリハビリ病院のアドバイスを個人に合ったメニューを組みプログラムを作り職員とリハビリを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に地域自治会長と民生委員に必ず出席して頂いており地域の情報や施設の状況の情報交換を行えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれ診療科目ごとにかかりつけ医がおり、必要時は受診、相談できる体制が整っています。受診結果は、ご家族に電話や訪問時に説明しています。歯科については訪問歯科を利用。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度訪問看護を受けており、利用者の状態を伝え、適切なアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時施設より介護サマリーの提出をしている。連携医療機関の退院計画に添い、ご家族を含め施設側と協議し、迅速な対応をおこなっている。施設へ帰れぬ状況では、療養病床や老健の相談、紹介を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合には提携医と施設が連携をとり、家族の意向を確認しながら施設としてできる限りの支援をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜間時における緊急対応は緊急時連絡網に添って行っているが、より迅速な対応については職員間で話し合っています。利用者の急変、事故発生時の応急手当、初期対応については施設独自の介護マニュアルや研修等で身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災時、土砂災害時の避難訓練を実施しています。自治会主催の消防訓練にも参加しており自治会との連携に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけないような言葉がけを心掛けています。利用者、キーパーソン以外の人に情報提供をしないこととしている。社内研修により個人情報やプライバシーの確保について指導しており、個人情報書類については保管場所を定めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が発言しやすい環境を作り、コミュニケーションを図り、本人の決めた内容によりつけた実施が支援できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入所以前の生活習慣や生活のリズムを尊重し、一人一人の日常生活を把握し、その日の体調や気分に合わせて過ごせる様配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容を希望されている方に関しては2か月に1度出張の理美容をいれています。毎日の身だしなみは本人の希望に合わせて行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の嚥下状態や栄養面、アレルギー等を考慮し食事を提供しています。季節や行事に応じた献立や誕生日には希望の料理をメニューに取り入れたりして食事を楽しんで頂いています。テーブル拭きや下膳の手伝いをしてくださっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量のチェック表より、毎日の摂取量を把握しています。医療からの指示に基づき生活習慣や思考、その日の様子を考慮し摂取量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後、就寝前に実施。 (必要に応じて介助しています。) 義歯の管理については職員がかかわり紛失や破損、清潔の保持につとめており、訪問歯科による個々の口腔指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導をしています。夜間帯のトイレ誘導も本人の希望に合わせて行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘がちの方には水分量を増やし、牛乳やヨーグルト等を飲んで頂きなるべく自然な形で排泄できるよう努めていますが、定期受診時に医師の指示に基づき便秘薬を調整し排便コントロールを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴前には必ずバイタルチェックを行い体調を把握した上で入浴をしています。湯音や入浴時間等希望を考慮し、湯船のお湯は一人一人取り替え、ゆったりとくつろげる入浴をめざしています。シャワー浴、清拭、足浴も併用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の体調や状況に合わせて休息や臥床をしています。昼夜逆転しないよう日中適度な運動や活動、日光浴や外気浴をして昼夜のメリハリをつけ安眠につながるようしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容や副作用については提携薬局からの情報や指示を受け、処方内容を確認するよう徹底しており、誤薬防止の為薬箱の個別化、職員同士の二重チェックをしています。日々の状態変化、動態観察にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活の中で、家事の役割が自然と利用者の交流の中から生まれるよう支援しています。趣味への取り組みについては個別のレクリエーションとして継続できるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の体調や気候、気温をみて外気浴や散歩に出ています。買物の外出については希望に沿ってお連れすることが難しい場合がある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持に関しては管理ができる方に限定されている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに注意し、電話の使用、手紙のやり取りがおこなわれています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間の清潔を保ち、季節ごとに壁に装飾を配し、利用者の作品等を飾り、季節感や、生活感のわかる空間づくりに工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士で談話をしたり、気分転換の為一人でくつろげるようソファの設置をしています。窓辺に作品作りを楽しめるようテーブルも設置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具、タンス、テレビ等を持ち込んで頂き、その人らしい部屋作りをおこなっています。気持ちよく過ごせる様毎日清掃を行い清潔の保持に努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要箇所には手すりを配置、洗面台の高さ調整など配慮をしています。安全面については床に弾力性のある素材を使用し、転倒骨折の防止を図っています。		

平成30年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム梅

作成日： 平成31年3月13日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	事業所から地域の防災訓練に参加する参加するだけでなく、事業所の防災訓練に地域の方にご参加してもらい、事業所の認知度向上、災害時の協力関係を築く必要がある。	事業所の防災訓練に地域の方にご参加してもらい、事業所の認知度向上、災害時の協力関係を築く	運営推進会議や収穫祭などの行事を通じ、地域の方に事業所の防災訓練へ参加して頂く。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月